

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2015. 10
No.266

“育”

イナテックの今年のテーマは“育”です。

これは、せっかく御縁のあった社員の皆さんを『育てきる』こと、そして、『育ちきる』ということです。この双方の努力と覚悟があつてはじめて“育”が成立すると考えております。

二〇一五年四月一日付日本経済新聞の春秋欄に元経団連会長の土光敏夫氏の言葉が載っていました。「立派な教育投資も猛特訓もいらない。鍵は上司と部下が毎日過ごす職場そのもの、毎日の仕事そのものだ」と……。

“教育は強制から始まる”

これは、致知二〇一五年一〇月号の安松幼稚園、安井理事長のインタビュー記事にありました。「education」の原語であるラテン語「educere」は、いろいろな資質を引き出すという意味だそうです。

例えば、朝起きたら「おはようございます」と挨拶をする。病気の人には「お大事に」と言う。人の話を聞く時は背筋を伸ばし、凛とした姿勢で相手の目を見て静かに聞く。電車やバスでお年寄りが来たら席を譲る……など。

そういう型を身につけて、幼児を人としての軌道に乗せていくことが教育の第一歩です。教育とは強制から始まるのです。

強制といつても無理やりさせるのではなく、徹底して先生や年長の子の真似をさせるのです。

ところが今の日本の社会全体を見ると、「自由・平等・個性」という三つの言葉が流行り文句

です。逆に「強制」とか「型にはめる」というのは悪い言葉というのが一般の風潮です。

これはとんでもない話で、書道にしても音楽にしても、型を否定したのでは教育は成り立ちません。

子供のしたいようにさせること、勝手にさせることを自由、個性だと履き違えている。だから授業中に自分の席に座らず、教室を走り回っている子を、それが自由、個性だとして叱らない、放つたらかしにしている。また、徒競走で順位をつけると子供の心に傷がつくから、少し手前で止めて、手を繋いでゴールする。それが平等だと思っている。

そういった表面的な価値観を叩き潰さないと、日本は立ち直れないと思っています。

私が企業理念の中で述べさせていただいていること、今年の“育”について、この安井理事長の思いが重なってきましたので紹介させていただきます。

風邪の季節のエチケット

朝夕めっきり涼しくなってきました。風邪をひいている人も増えてきました。そこで「MORNING CLASS」に載っていた松本百合子さんの「日仏エレガント事情」を皆さんに紹介させていただきます。

日本で生まれ育った私は、人前で鼻をかむのは失礼なことと思つて長いこと生きてきたというのに、今では鼻をかみたくなると、どこでも迷わずティッシュを取り出し、鼻をかむ。しかも勢いをつけて。

フランス人が躊躇なく人前で鼻をかむのは、実は話し好き以前に絶対的な理由がある。鼻をかまずに「ズズ」とするのは、お行儀が悪い。下品で汚らしく、人を不快にするとされている。「日本の女の子はみんなかわいけれど、絶対にやめてほしいことがある。鼻をすすること。日本は街を歩けばティッシュが手に入る国なのに、どうして使われないのか。どこでもかしこでも鼻をすすっている。無骨な男たちならともかく、一点の隙もないようなおしゃれをした女の子に

目の前でズズとやられると、一気に幻滅するよ

私は彼らの発言を苦々しい気持ちで受け止めながら、鼻のかみ方をケースバイケースで使い分けることにした。

フランス人と一緒のときは食事中であっても「失礼」と前置きした上で、「チンツ」と一気に済ませる。実はその方が見ている側にも本人にと

二九

進歩處、便思退歩、庶免觸藩之禍。着手時、先圖放手、纔脫騎虎之危。

歩を進むるの処、便ち歩を退くを思わば、庶わくは藩に觸るるの禍を免れん。手を着くるの時、先ず手を放つを圖らば、纔に虎に騎るの危きを脱れん。

一 藩に觸る——雄羊が垣根に角を突つこんで、進むことも退くこともできない。易经大壮卦に「羝羊（雄羊）藩に觸れて、退くこと能わず、遂むこと能わず」（上六）とある。二 虎に騎る——虎に乗ると、下りれば虎に食われる。勢いに乗ると、途中で止められないことに例える。五代史に「崇韜頗る懼れ、其の故人子弟に語りて曰く、吾、天子を佐けて天下を取る。今、大功已に就りて、群小交も興る。吾これを避け歸りて鎮陽を守らんと欲す。庶幾わくは、禍を免れん、可ならんか」と。故人子弟對えて曰く、俚語に曰く、虎に騎る者は勢い下るを得ず、と。今、公の権位已に隆けれども、下に怨嫉多し。一たび其の勢を失わば、よく自から安からんか、と（郭崇韜伝）とある。

処世に当たっては、一歩ふみ出すところで、そこで一歩退く算段をしておけば、なんとか、向う見ずに進んだ雄羊が垣根に角を突つこんで進退きわまるような、災いを免れられるであろう。また、事業に当たっては、いざ着手するときに、まずその事業から手を引くときの工夫をしておけば、それでこそ騎虎の勢いでみすみす陥るような、危険を逃れられるであろう。

つても、さっぱりするということも今ではわか
る……。

世界中には、このように考える人たちもいる
という事です。知っておいて損することはありません。
ませんし、文明国では当たり前かもしれません。
これからよく注意をして、観察し学びましょ
う。